宿曜經撰日捷法

た
25

帝國圖書館藏

ガラス使用

特別
た
25

開元二年甲寅距天保壬辰一千一百一十九年也去千滿一百一十一周餘九年甲去至又減去支周八十三止餘三年寅至辰然則上元癸丑至開元甲寅一千五百〇二年也明矣 聖藏一年去一千五百一算外從更詳

秘合運

周宣王四十年癸丑距天保三壬辰當二千六百廿年去文法三百十八餘四年丑當辰千法準之

宿曜經撰日捷法

栗原信充著

宿曜經ハ唐乾元二年（日本淡路廢帝天平寶字三年ニ當る 天保三年まで一千〇七拾四年ニ及ふ）不空三藏肅宗皇帝の詔ニよりて翻出されしものなり その算曜直章ニ宿曜上元大唐開元二年甲寅より積一千五百一算外二月朔日甲辰月曜とあるを以て考ふれハ周宣王四十年癸丑年ニあたる（佛滅後百六十二年）然る時ハ宿曜の傳來今日ニいたり既ニ二千六百十九年ニあたる 其術ハ是文殊師利菩薩

大正
2. 4. 28
購求

の所説といひかつ今日行用の暦本にまゝ是を注（ちう）されたる是にもとづく日時を撰用し真俗（しんぞく）各（おの/\）生得（しやうとく）たる本命宿（ほんめいしゆく）をしり羅睺計都（らごけいと）の直（あた）る如を考（かんか）へ行事（ぎやうじ）を謹（つゝし）み天授（てんじゆ）の稟壽（ひんじゆ）を全（まつた）くし上ハ國恩（こくおん）を報（ほう）し父母（ふぼ）を安（やすん）し下ハ妻子（さいし）眷属（けんぞく）を撫育（ぶいく）しなバ即是居家孝弟に導くの一端といふべし故に今童蒙のためにこれを細注し冗長（じようちやう）紛雑（ふんざつ）をいとはず就中佛子よくこれを崇奉（そうぶ）し文殊垂示の大法をして地に墜さしむることなかれ

天保三年暦に正月大壬寅星宿値月斗宿木曜値朔日と注し二月小建癸卯張宿女土曜とあり是正月朔木曜二日金三日土と次第して二月朔土曜にあたる（是七曜直なり） 又正月朔斗宿二日牛宿三日女宿と次第されハ二月朔女宿にあたるなりまた正月星宿二月張宿とあるも次第旋なり」たゞし弘安十一年の暦に九月一日（氐宿 月曜） 十月一日（心宿 水ー） 永仁四年暦に十二月一日（虚 水） 延慶二年暦に正月一日（室ー 火ー） 二月一日乙卯（奎ー 木ー） 三月一日（胃ー 金ー） 四月一日（畢ー 日ー） 文保二年暦に十月一日（心ー 水ー） 十一月一日（斗ー 金ー） とみえ

ガラス使用

ハ宿曜經に正月一日室（延慶二年合）二月一日奎（冂上）三月一日胃（冂上）四月一日畢（冂上）五月一日參 六月一日鬼 七月一日張 八月一日角 九月一日氐（弘安十一年合）十月一日心（同上）十一月一日斗（文保二年合）十二月一日虚（永仁四年合）とあると全く同し次に弘安十一年九月朔日月曜とあるハ宿曜上元癸丑年二月朔日甲辰月曜より歷數二千〇七十五年筭外月數二万五千六百六十四月（二万四千九百月常月 七百六十四月閏積）日數七十五万七千八百七十三日（六十づゝ引て一万二千六百卅一周して餘十三あり甲辰より命起し丙辰日を弘安十一年二月朔とス即長曆と合）にして二月朔にあり是より二百七日にして九月朔日なり此積日七十五万八千〇八十日（六十づゝ引て一万二千六百卅四周し終て餘四十五 甲辰より命起し四十ハ癸未なり即九月朔日癸未と合又七曜にて十萬〇八千二百九十七周して餘一あり即月曜を得て九月朔日に直たるなり）

又弘安十一年九月朔日癸未月曜より天保三年正月一日己酉まて五百四十四年外積日十九万八千四百四十六日（癸未起 三千三百〇七周終て餘廿六癸未より數て己酉と正月朔日とし七曜二万八千三百四十周の餘三又之月火水と數へて木曜正月一日己酉にあたる）かゝる時ハ宿曜上元癸丑より天保三年まて二千六百十九年に當る日數九十五万六千五百廿六日筭上（七曜十三万六千六百四十六周し終り餘四月°火°水°木と數へ木曜正月）

九執暦
開元二年二月朔甲辰月曜

朔日に當り又甲辰旬紀一万五千九百四十二周の餘六あり（甲辰　乙巳　丙午　丁未　戊申　己酉　にして正月一日己酉となる）にして二千六百十九年相續の七曜今日に至れり蓋諸天善神呵護（かご）して間絶（けんぜつ）せざらしめし故なるべし

宿曜算直章に載たる暦術簡便にして然もよく末代の諸暦と密合せるこそ大梵聖作の規摹宏遠たる処と云べし童蒙の為に其算法をこゝに細記す一に上元よりの歴數を立それに十二をかけ常月を定め二に常月に七をかけ二百廿八にてわり閏積を求め常閏二ツと合せて積月とし三に積月に卅を乗して總日數となしそれに十一を乗し又百を加へ七百〇三にてわりこれを小月の數となし總日數の内を引のこりを六十日づゝ引不盡を甲辰より命起し算上即求る月の甲子とたとへば

三　二六十九
四　廿
五　廿一
六　廿二
七　廿三
八　廿四
九　廿五

距算減一故二千六百十九年適當也若不減一則月數剩也

十　廿六
十一　廿七
十二　廿八

天保三年二月己卯朔土曜

歴元癸丑距（天保三壬辰）　二千六百十九年（この年數へ十二をかける常月なり）

常月　三万千四百廿八（此常月へ七をかけ二百廿八にてわれば閏積なり）

閏積　九百六十四月二〇四（常月と合せて積月なり）

積月　三万二千三百九十二月（それに三十をかければ總日なり）

ガラス使用

~~四百年強故當六轉若日~~
~~下年弱則當五轉欤~~

總日九十七万千七百六十日（これに十二を乗し七万を加へ七百二にてきれハ小月數出る）

小月一万五千二百〇六〇四二（上と差引總日實を出と）

總日實九十五万六千五百五十四日~~四~~五八（六十にわり一万五千九百四十二周終て餘卅四）

日五八あり甲辰より命起し卅四五八を卅五とし

其次卅六にあたる己卯即二月朔なり

又七曜十三万六千六百五十周終り餘四日五八あり是五日にあたる

即月曜火曜水曜木曜金曜と轉し其次六にあたる土曜二月朔なり

此算法弘安十一年より以来五百四十四年の間をためしに密合

ことこしも違なきにけれハ此を以て上を推にもさて違~~[illegible]~~はなかるし

試に春秋桓公三年七月壬辰朔（周の七月ハ建午月也）

上距（サル）周宣王癸丑（ニ）七十九年（十二を乗し）九百四十八月なり

閏積ハ廿九月〇二四　月積九百七十七月（建卯建辰建巳建午の四月を加へて）

積月九百八十一月〇二四　小月四百六十一〇五（日一四七）

積日二万八千九百~~廿~~六十九日（六十紀をもて除ハ四百八十二周終て餘四十九あり甲辰より命起し~~癸巳~~壬辰を得て八月朔とい◎）

春秋注家及ひ貞享暦ニても是歳八月壬辰朔とせり

宿曜経~~にてハ八月癸巳朔なれハ一日の差あり~~

桓公十七年十一月庚午朔（貞享暦）九十三年

常月千百十六月　閏卅四月〇六　合千百五十月

小月五百四十三　總日實三万四千百六十七日（五百六十九周の餘廿七あり　甲辰より命起庚午十二月）

朔之

莊公十八年五月壬子午朔　百十二年

積月千三百八十七月　積日四万〇九百五十九日（六百八十二周餘卅九　壬午あり）

莊公廿五年七月辛未朔　百十九年

、月千四百七十四月　、日四万三千五百廿八（七百廿五周　廿八辛未）

廿六年十二月癸亥朔　百廿年

積月千四百九十二月　積日四万四千〇五十九（七百卅四周の餘　十九二一　癸亥）

莊公三十年九

春秋桓公三年月庚午朔（貞享大衍授時ともに青とく）　百廿四年

常月千四百九十四月　閏四十五月一九八

積月千五百卅九月　積日四万五千四百卅七日（七百五十七周餘廿七　庚午あり）

僖公五年九月戊申朔　百卅三年

常、千六百〇一月　閏四十九月〇三亥

積、千六百五十月　積日四万八千七百廿八日（八百十二周餘　五　戊申あり）

漢惠帝七年五月丁卯晦日食戊辰

此歳宿曜六百年にあたる依てあ

に己巳朔あり卯月己巳朔なる時ハ

建巳月六五月ならい南時建子月を以て正月とせるゆ

小月五百四十三　總日實三万四千百六十七日（五百六十九周の餘廿七あり　甲辰より命起庚午十二月）

朔之

莊公十八年五月壬~~子~~午朔　百十二年

積月千三百八十七月　積日四万〇九百五十九日（六百八十二周餘卅九　壬午あり）

莊公廿五年七月辛未朔　百十九年

、月千四百七十四月　、日四万三千五百廿八（七百廿五周　廿八辛未）

廿六年十二月癸亥朔　百廿年

積月千四百九十二月　積日四万四千〇五十九（七百卅四周の餘　十九二一　癸亥）

春秋桓公十年月庚午朔（莊公三十年九）　貞享大衍授時ミな有とし　百廿四年

常月千四百九十四月　閏四十五月一九八

積月千五百卅九月　積日四万五千四百卌七日（七百五十七周餘廿七　庚午あり）

僖公五年九月戊申朔　百卅三年

常、千六百〇一月　閏四十九月〇三六

積、千六百五十月　積日四万八千七百廿五日（八百十二周餘　五　戊申あり）

漢惠帝七年五月丁卯晦日食戊辰六月朔

此歳宿曜六百年にあたる依てまさしく建卯月朔を求る

に己巳朔あり卯月己巳朔ある時ハ戊辰朔ハ是（建）巳月なるへし

建巳月五月（六）なるハ時建子月を以て正月とせるゆへ

ガラス使用

又建寅月を正月として算すれは

積月七千四百廿六月　積日廿一万九千二百九（六）十四（六）日（三千六百五十四周余　廿六己巳朔）

六月己巳朔にあたる然る時は丁卯は五月廿九日戊辰晦と云へ

宿曜暦はかくの如く密合する時は實に不測の佛智より衆生の災禍にかゝる事を哀愍してこの法を傳へ給ひし事何そ疑ふへけん

やさく（正月元日に生れし）人の本命宿を知るに尤切要肝なるところに

正月一日室宿

即この人本命室宿とするへし次に三九秘宿品の室宿の上に命の字を第れは

命室　栄壁　衰奎　安婁　危胃　成昴　壊畢　友觜　親参

業井　鬼　柳　星　張　翼　軫　角　亢

胎氐　房　心　尾　箕　斗　女　虚　危

かくの如くなる故に壁鬼房の三宿にあたる栄日には必金銀の入ることあり参亢危の親宿日には必貴遊の交をなすこと多くあるへし　伊藤仁齋先生は寛永四年七月廿日に生る本命昴宿なり寶永二年三月十九（二）日に没す此歳（三月）羅睺昴宿

特別 た 25

ふあり即終上

六百七日ロ三　十二月（閏減日法）卅ノ朱スレハ一百ノ月ノ紛度　七百三ニテノノノ

特別
た
25

ガラス使用

帝國圖書館藏